

令和8年度周南市こども育成支援対策審議会(第8期第3回)会議録

日 時	令和 8 年 8 月 6 日 (木) 15 時 00 分～16 時 30 分
場 所	周南市徳山保健センター 3 階 健康増進室 1
議 事	議題 1. 「周南市こども計画」の進捗状況の点検・評価について
出席者	● 委員 13 名 ※会議成立 (2 名欠席) 鶴田会長、兼重副会長、牛島委員、三分一委員、大城委員、原田委員、大野委員、河村委員、陶山委員、石田委員、加村委員、來見委員、吉田委員 ● こども未来部長ほか、事務局 11 名 (あんしん子育て推進課、子育て給付課、こども保育課、生涯学習課、学校教育課)

議題 1. 「周南市こども計画」の進捗状況の点検・評価について	
資料 1 ・「周南市こども計画」の進捗状況の点検・評価について (令和 7 年度実績)	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	学校教育課 資料に基づき、周南市こども計画の進捗について説明。
○委員	質問・意見なし。
□事務局	こども保育課 資料に基づき、周南市こども計画の進捗について説明。
○委員	子育て援助活動支援事業 (ファミリーサポートセンター) では、こどもの預かりを行った家庭 (支援を提供する側) に対する直接的なメリットはあるか。
□事務局	こども保育課 こどもの預かりを実施した家庭に対しては、活動助成金として 1 回あたり 500 円を支援している。今後は支援を提供する側を増やすため、広報活動や助成金の見直しなどを含めて方法を検討していきたい。
○委員	子育て援助活動支援事業について、預かりを行う家庭の不足を懸念している。 また、一時預かり等の空き情報を市の窓口へ問い合わせた際、情報がリアルタイムではないため不便に感じた。リアルタイムに空き状況が確認できる仕組みや、オンライン予約システムの導入は可能か。

	さらに、ファミリーサポート事業は事前面談等の利用ハードルが高いため、より簡便に利用できる仕組みを検討してほしい。
□事務局	<u>こども保育課</u> 市ホームページでは一定の間隔で空き情報を発信しているが、スマートフォンアプリを活用した各種手続きや、リアルタイムの空き状況確認については課題として認識しており、今後の改善方法を検討したい。ファミリーサポート制度についても、安心・安全な運用を担保しつつ、利便性を向上のため、もう少し簡単に利用できるよう子育て支援センター等と連携して取り組んでいきたい。
○委員	一時預かりの場所の確保といったハード面だけでなく、「こどもの愛着形成」を重視し、家庭保育と一時預かりのバランスを考慮することが必要ではないかと考える。 また、市内の病児保育事業の具体的な実施場所を教えてください。
□事務局	<u>こども保育課</u> 病児保育は、かわむら小児科の「モーモーハウス」。賀屋小児科の「パピー」、藤原医院の「わんぱくの国」。計3か所で利用可能な体制を整えている。
○委員	こども誰でも通園制度の利用実績はどうなっているか。
□事務局	<u>こども保育課</u> 令和7年度実績として、市内6箇所の施設において、利用実人数182人、延べ利用人数431人、延べ利用時間782時間となっている。
○委員	同制度は希望すれば全員利用できるのか。また、待機人数は発生しているか。
□事務局	<u>こども保育課</u> 各施設の利用定員は3～6人、利用上限は1人あたり月10時間となっている。利用時間帯によっては定員に達することもあるが、基本的には事前調整を行うことで、希望者全員が利用できている。
◎会長	こどもの保育は全国的な課題でもある。事務局においては、今後も安心してこどもを育てることのできる環境づくりに継続して取り組んでほしい。
□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 資料に基づき、周南市こども計画の進捗について説明。
○委員	養育支援訪問事業の実績が想定より多いが、対応する職員の確保は十分にできているか。 また、各事業の対象年齢が「0歳から18歳」と示されているが、保護者の認識として乳幼児向けのイメージが強いため、小学生や中高生、

	その保護者に対しても周知が必要ではないか。
□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 支援を必要とする家庭が増えており、職員の業務負担が増加している現状はあるが、適切な対応が図れるよう体制を整えている。 対象者への周知については、支援を必要とする方が事業を利用できるよう、情報発信を強化していきたい。
○委員	子育て短期支援事業（ショートステイ）の実績 592 人について、児童養護施設や里親などの利用状況やその内訳はどうか。
□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 施設の受入状況や人材確保の状況により、常に受け入れ枠に余裕があるわけではない。実績 592 人の内訳としては、日帰りショートステイが 495 人、宿泊ショートステイが 97 人となっている。宿泊ショートステイの内訳は、児童養護施設が 74 人、里親への委託が 23 人である。
○委員	こども食堂を運営しているが、今年 4 月以降、利用するこどもの数が増えている。部活動の地域移行に伴い、中学生の放課後の居場所が無くなっていることが要因だと感じている。今後もこども食堂をこども達の居場所として活用して欲しい。
□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 地域における活動に感謝する。活動を持続的に継続していただくため、今後も必要な支援を行っていきたい。
□事務局	<u>生涯学習課</u> 資料に基づき、周南市こども計画の進捗について説明。
○委員	質問・意見なし。
□事務局	<u>子育て給付課</u> 資料に基づき、周南市こども計画の進捗について説明。
○委員	質問・意見なし。
◎会長	その他、意見・質問をお願いします。
○委員	保育園からの意見であるが、現場では保育士不足が課題となっている。実際にハローワークへ求人を出しても、問い合わせの電話もかかってこない。保育人材の数を増やさなければ、保護者が預けたくても預けられない状況が解消されないため、保育人材確保の重要性に理解を深めてほしい。

○委員	若者世代の視点からの意見であるが、酷暑や降雨などの悪天候時であっても、屋内で身体を動かせるスポーツ施設や、商業機能を備えた多目的な交流スペースが欲しい。魅力ある居場所が市内に整備されることを期待したい。
その他	
□事務局	こども保育課 再編整備担当から公立幼稚園、公立保育園の再編整備状況について説明。 令和８年４月１日より、「須々万幼稚園」と「須々万保育園」を再編し、認定こども園「須々万こども園」として運営を開始している。本年秋頃に「徳山北部拠点施設」が完成予定のため、完成後は新施設へ移行する予定である。 また、「第二保育園」と「尚白保育園」を集約し、第二保育園の跡地に新施設の建設を進めている。令和９年７月以降の開園を目指しており、施設の利用定員を決定する際は、本審議会に諮る予定である。
◎会長	全体を通して意見・質問をお願いします。
○委員	中学生の部活動の地域移行が進められているが、全員が地域クラブに加入するわけではないため、中学生の放課後の居場所づくりが重要な課題であると感じている。実際に街中を目的なく徘徊しているような生徒も見受けられ懸念している。市として、中学生等の居場所づくりについて検討してほしい。
□事務局	こども未来部長 部活動の地域移行に伴う課題や影響は認識している。将来的には、中学生や高校生も含めた居場所の確保を目指したいが、すぐには困難である。教育委員会や他課と連携し、現在市内で活動・利用できる場所がどこにあるかといった情報を整理し、周知していきたい。 また、本日の審議会全体を通じて、市として優れた事業を展開しているものの、その制度や情報が市民に十分に届いていないという課題を強く実感した。委員からお話があったように、保育士だけでなく教員や看護師、市職員などの深刻な人材不足についても、仕事の魅力ややりがいといった実態が正しく発信されていないことが要因の一つと考えられる。今後は市として情報発信の強化にしっかりと努めていきたい。
◎会長	他に意見がなければ、本日の審議は終了する。